

「過越の食事をする」

2022年06月03日

「すると、席のきちんと整った二階の広間を見せてくれるから、そこに私たちのために用意しなさい。」弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスの言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。

(マルコ福音書14章15節～17節)

一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「よく言っておく。あなたがたのうちの一りで、私と一緒に食事をしている者が、私を裏切ろうとしている。」弟子たちは心を痛めて、「まさか私のことでは」と代わる代わる言い始めた。(マルコ福音書14章18節～19節)

イスラエル人は先祖の教えと伝統を固く守る民族である。彼らはエジプトの奴隷状態から解放された過越祭を民族最大の喜びの祭として営々と守り抜いてきた。この時には決められた食材を用意して記念の「過越の食事」をする。除酵祭の第一日、即ち、過越の食事に食べる小羊を屠る日になった。弟子たちは主イエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と尋ねた。主イエスは二人の弟子に次のように言って、使いに出された。「都(エルサレム)に行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人に付いて行きなさい。そして、その人が入っていく家の主人にこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする宿屋はどこか」と言っています。』すると、席のきちんと整った二階の広間を見せてくれるから、そこに私たちのために用意しなさい。」弟子たちが都に行ってみると、主イエスの言われた通りだったので、過越の食事を準備した。そして、夕方になると、主イエスは弟子たちと共に二階の広間へ行かれた。主イエスの要望を受け、過越の食事をする場所と食べ物を用意してくれる協力者がいた。エルサレム入城の時、予ろばが用意されていたように、労を惜しまず、手はず通りのことをしてくれる人々がいたということである。

一同が席に着いて食事をしている時、主イエスは突然、「よく言っておく」と前置きし、「あなたがたのうちの一りで、私と一緒に食事をしている者が、私を裏切ろうとしている」と言われた。食事の時に、裏切る者がいるなど、言い出すようなことではないが、主イエスの心は大きく揺れていたのではないか。弟子たちは驚き、この場は凍り付いたに違いない。弟子たちは主イエスの言動に感嘆し、慰めと励ましを得、命を賭して従っていることを何よりの誇りとしていた。それなのに仲間の中に、主イエスを裏切る者がいるなどとは考えられないことであつた。彼らは心を痛めて、「まさか私のことでは」と代わる代わる言い始めた。主イエスは、「十二人の中の一りで、私と一緒に鉢に食べ物を浸している者だ。人の子(主イエス)は、聖書に書いてあるとおりに去っていく。だが、人の子を裏切る者に災いあれ。生まれなかったほうが、その者のためによかった」と言われた。ヨハネ福音書では、イスカリオテのユダに主イエスが「しようとしていることを、今すぐするがよい」言われると、彼は裏切りに走り、夜の暗闇に消えていったと記している。しかし、弟子たちはユダが裏切るとは受け止めていない。マルコ福音書は「彼は生まれなかったほうがよかった」と書かれているが、これは、主イエスの言葉ではなく、ユダを嫌悪した後世の加筆であろう。ユダも、主イエスの十字架の赦しの中にある。そうであるから、主イエスを裏切る私たちも救われる者とされているのではないか。